

島の自然と暮らしのゆんぬ古写真展

vol.4

日時

2025年
(令和7年)

2月13日(木)～28日(金)

場所

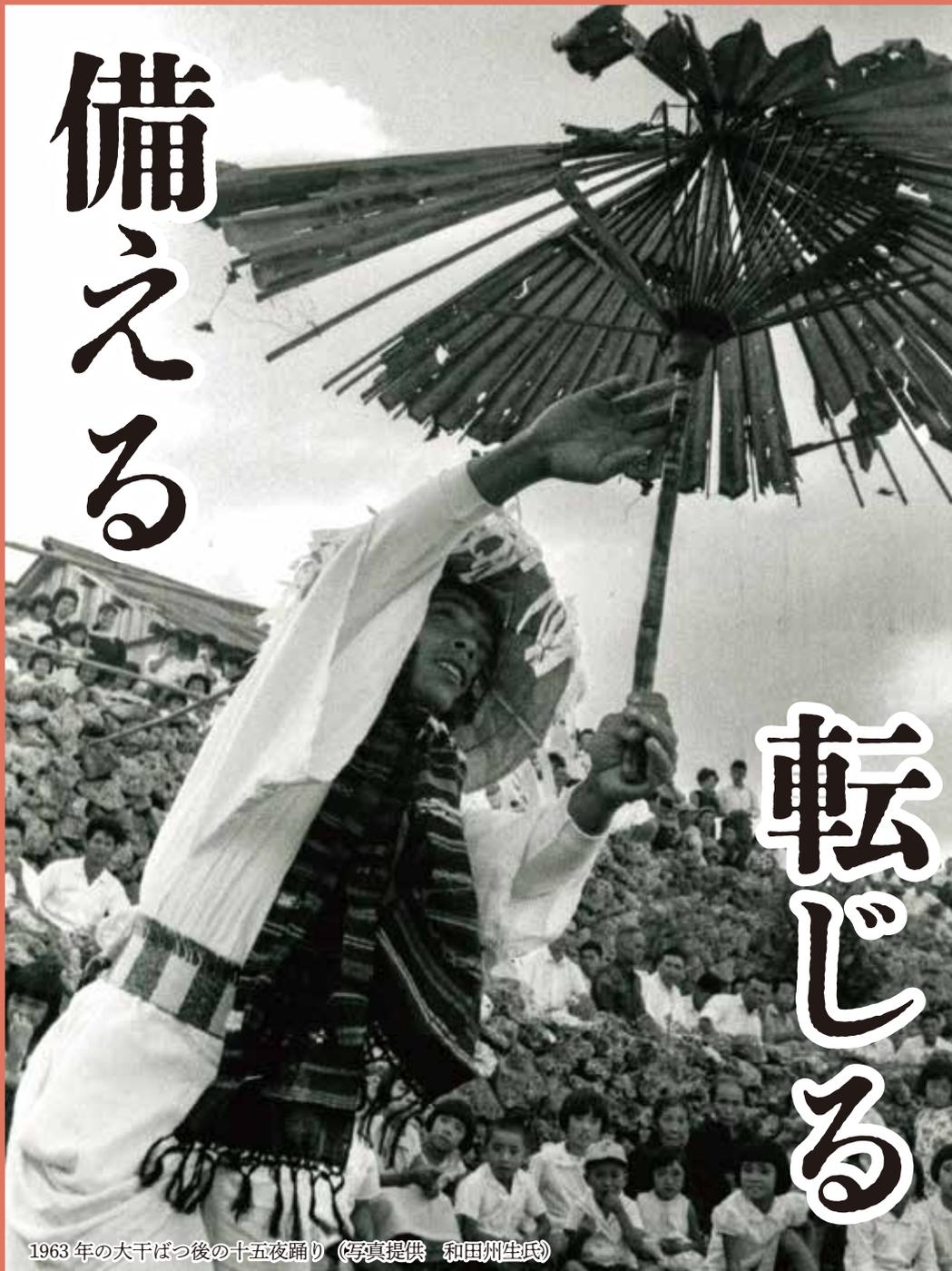
与論町砂美地来館

(与論町茶花2045)

*水曜日休み

転じる

備える



1963年の大干ばつ後の十五夜踊り (写真提供 和田州生氏)

与論島は、自然の恵みを活かした暮らしを大切にしてきた島です。2020年より、地域の方や与論町教育委員会、地元NPO、資料館、研究者らが共に協力しあう協働プロジェクトとして、市民参加型「自然と暮らしを考えるゆんぬ古写真調査」プロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトでは、与論島の人たちが自然とともに生きてきた知恵や暮らし、自然の移り変わりを理解する歴史文化資料の収集と記録や、島の未来のあり方を考えるための対話の場づくり、教育教材開発、誰もが閲覧し、使用することのできるデジタルアーカイブの構築に取り組んできました。

第4回目になる写真展のテーマは「備える、転じる」。

歴史を振り返ると、島は台風や大雨・水不足などの自然災害だけではなく、赤痢や新型コロナウイルスなどの疫病をはじめ、さまざまな「災い」と向き合ってきました。これらの経験と記憶に耳を傾けることは、生きる知恵を未来へ繋ぐことでもあります。収集された昭和30年代から現代までの写真を通して、島の自然や暮らしがどのように変化してきたのかを、ぜひ世代を超えて語り合う機会となれば幸いです。写真の中には、詳しくはいつの、何をしているものなのか、わからないものがたくさんあります。ぜひ、いろんな世代の方に見ていただき、情報提供いただければと願っています。

